

意見交換会の論点

1. 4市における空間線量の現状、除染の効果

- ①除染及び物理的減衰等により、現在、空間線量率はどのような状況にあるか。特に、今後除染を予定する地域においてはどうか(注1)。

注1:基本的に、4市は、各市の比較的線量の高い地区を優先し、その後低い地区の除染を行う計画に基づき除染を実施。

- ②除染事業(除染作業の前後)では、どの程度の空間線量率の低減効果が認められているのか。

- ③除染後も、その低減効果は維持されているのか(注2)。

注2:除染後に、雨等により再度空間線量率が高くなるため除染は意味が無いのではないかと不安の声あり。

- ④今後の空間線量率の低減に物理的減衰等はどの程度期待できるのか。

意見交換会の論点

2. 4市における個人線量と空間線量の関係

- ①政府の長期的な放射線防護の目標(注3)である年間追加被ばく線量1ミリシーベルトとの関係において、4市の個人被ばく線量はどのような状況にあるか。

注3:空間線量率0.23マイクロシーベルト/時は、汚染状況重点調査地域を指定する際の基準。除染直後に達成すべき空間線量の目標ではない。

- ②地域の空間線量率とその地域に居住する市民の被ばく線量との間には、どのような関係にあるか。この情報の使い方に関する留意点は何か。

意見交換会の論点

3. 汚染状況と除去方法

- ①事故直後から3年余りを経た現時点で、放射性セシウムによる汚染(付着)の状況には変化がみられるか。
- ②4市における除染の手法について、汚染の現状を踏まえた対応、新たな工夫等はどうか。市民の理解をいただくにはどういった説明が必要か。

意見交換会の論点

4. リスクコミュニケーション

①例えば、勉強会で下記のような課題が挙げられる中、このような状況をもたらした要因は何か。これまでの経験から教訓として共有できる具体的な失敗例はあるか。特に解消すべき不安や対象(誤解を含む)はどこにあるか。

・除染の実施、空間線量率の低下等が、必ずしも市民の不安解消に結び付いていない。(多くの市民の被ばくの現状は、すでに長期的な目標としている1ミリシーベルト以下という測定結果。国際機関からの評価結果。)

・市町村により、あるいは地区により、除染手法が異なることの不公平感、不信感。

②今後、取り組むべき、充実されるべきリスクコミュニケーションの姿とは。特に、個人の被ばく線量に着目した取組が可能となってきたつつある現状に鑑み、優良事例の共有や助言等はあるか。

福島県外へ何をどのように発信していくのか。

③リスクコミュニケーションの充実のための施策、除染から復興に向かう取組を支援する施策として期待する内容は何か。